

## 成果の説明書

(氏名) 藤井孝宗	(学部) 経済
<p>1 重要事項</p> <p>本年度は、昨年度から引き続き入試担当学部長補佐としての学部の入試業務を担当した。入試出題や入試関連業務の業務担当者の決定や、様々な事務業務を担当した。また、2025年度入試から高校の新学習指導要領（新教育課程）に対応した入試制度に変更する必要があるため、新制度の入試の雛形を作成する必要があるため、本年度も昨年度に引き続き新課程における入試問題の内容の検討に時間を費やした。具体的には入試科目や試験範囲の検討、試験内容の検討などを学部長や他の入試関連の委員、事務局と連携しておこなった。高校などへのヒアリングも積極的に行い、昨年度中に決定した試験範囲やアドミッション・ポリシーなどをベースに入試問題作成の方針を決めていった。</p> <p>また同時に、教務関連の業務についても、カリキュラム検討委員会のメンバーとして部分的に関わった。こちらについては主に学生の履修モデルの作成などを行なったが、その過程で原稿のカリキュラムの問題点が浮き彫りになったため、これに関する対応の方針についても議論を重ねた。</p> <p>その他、新課程に関係ない点に関しても、本学の入試に関する課題は複数存在しており、それらの改善、改革についても議論を行った。議論の結果として、データ分析などの必要性が浮き彫りになったため、この点は次年度に手をつけていく予定である。入試制度に関しても改正が必要である可能性が出てきたため、それについての検討を行ったが、引き続き検討を進めていきたい。</p> <p>教育面では、コロナ禍でできなくなっていた語学研修、海外フィールドワークやインターンシップ、ボランティアなどの活動が本格的に再開され始め、国際学科の本来の形に戻ってきていると安堵している。私のゼミでも昨年度よりようやく海外フィールドワーク研修を再開し、本年度は2月に台湾、3月にシンガポールへの学生引率を行った。コロナ禍が続いていたため高校などでの海外経験ができなかったがほとんどで、実質的に今回が初の海外経験、という学生が多く引率にはかなり気を遣ったが、結果としては学生も満足して楽しんでくれたようであり、有意義なものになったのではないかと考えている。</p> <p>研究に関しては、本年度は科学研究費基盤研究(c)「海洋資源輸出は資源枯渇を悪化させるか：計量分析に基づく資源保護政策への示唆」をコロナ禍を理由に一年延長し、研究を継続した。引き続き学会などでの報告は困難であったため十分にはできなかったが、次年度に研究成果の一部を発表できる予定となっている。それ以外にも成果を積極的に公表していきたい。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>担当している科目のうち、「市場と経済」という名前の経済学入門科目において、e-Learning教材を以前より導入しており、IT技術を使ったアクティブ・ラーニングへの取り組みをおこなっている。将来的にオンデマンド講義に移行する可能性のある科目ということもあり、DXへの取り組みを今後も積極的に行っていきたい。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>来年度も引き続き経済学部の入試担当学部長補佐になることが決まっており、引き続き入試関連業務に注力したい。特に、2025年度入試から実際に新課程での高校新学習指導要領に対応した新入試制度、入試問題を利用する入試が始まるため、それに対する対応を万全にしていきたい。同時に、その他の本学入試に関する改善点についても検討を続けており、具体的なものにするために引き続き進めていきたい。教育に関しては昨年度</p>	

より再開したゼミにおける海外研修活動をより積極的に進めていきたいと考えている。また、コロナ禍以前に行っていた他大学のゼミとの研究発表会も次年度から再開できる見込みとなったため、こちらについても積極的に取り組み、学生が有益な研究、発表の経験を積めるよう助力していきたい。研究に関しては、科研費プロジェクトが終了したため、プロジェクトの成果をまとめつつ、次のプロジェクトの計画を練っていききたいと思う。